

審議会資料での審議会の主張とPTAタスクフォースの見解について

9月2日より三回に分けて行われた審議会主催保護者説明会では審議会側から審議会全体およびGJS単体の財務状況について詳細な説明がありました。これに対してPTAタスクフォースよりPTA側の見解をやはり詳細な資料を基に述べていただきました。審議会側とタスクフォースのお互いが掲げる前提条件についてはかなりの歩み寄りがあり、いくつかの帳票ではお互いが納得できるものも出てきました。しかしながら保護者の皆さんがもっとも関心を持っておられる、(1)一体GJS単体は赤字なのか黒字なのか？、また(2)このまま売却をせず何も手を打たなかった場合、審議会の財政が危機的状況になるのはあと何年くらい先なのか？、さらに(3)実際に売却リースバックを行った場合どれだけ審議会の財務が改善されるのか、という3点においては、未だに両者の結論はまったく逆のものとなっています。

ここでは、8月24日に審議会から配布された資料と、説明会においてPTA側が配布した資料をもとに、両者の見解の相違をまとめてみました。なおPTA側の配布資料は、PTAホームページ<http://SaveOurJapaneseSchool.org>でもご覧になれます。

1. 2004年度の現金減少に関して (審議会主張)

2004年度は106万ドルの現金減少。これは財務の赤字に援助金効果47万ドルが加わった赤字83万ドルにその他の要因が更に加わったもの。

<PTA側見解>

2004年度の現金減少が極端に多かったのは(2003年度2万ドル、2004年106万ドル)2004年度の特種要因が大半。日本政府からの援助金38万ドル、火災保険金33万ドルの合計61万ドルが年度内に入金されなかった事と会見方針の変更による。61万ドルは早急かつ確実に入金される。これらの特種要因を除くと、**実際の2004年度の現金減少は20万ドルにすぎない。**

2. 賃料のGJS収支への影響、審議会収支割り振り後のGJSの収支 (審議会主張)

GJSの審議会事務局への家賃44万ドルは、GJSの収支に影響を与えていない。これは審議会収支をGJSへ割り振っても赤字がほとんど変わらない(31万ドル→28万ドル)からも明らか。

<PTA見解>

審議会収支を適切に割り振ると**GJS単体の赤字は解消する(31万ドル→0万ドル)**。GJSが払っている賃料が不適切である事は明らか。

3. 現金残高の将来見通し（生徒数一定および生徒数増加）

（審議会主張）

キャッシュフローのシミュレーションを実施すると、

- (1) 生徒数一定の場合は2008年度に現金が200万ドルを切り、2010年度はわずか60万ドルにまでなる。
- (2) 生徒数が増加するとのシナリオでも現金が200万ドルを切る年が、2008年度から2009年度に1年延びるだけで構造は変わらない。

<PTA側見解>

ほぼ同じ仮定（援助金を除く収入、利払いを除く支出は一定等）でPTAでシミュレーションを実施すると違う結果が出た。

- (1) 生徒数一定でも、2010年度末でまだ現金と短期の定期預金の合計で260万ドルが手元に残る。
- (2) 生徒数増加のシナリオでは、手元の現金等の減少はわずかです。2010年度末は410万ドルとなる。

4. 売却・リースバックによる財務改善効果（試算）

（審議会主張）

売却・リースバックによる財務改善効果は66万ドルである。

<PTA見解>

効果の予測は相当に甘いと思われる。PTAでの試算では極僅かか、むしろ赤字になる。

（ご意見、ご質問はPTAタスクフォース admin@SaveOurJapaneseSchool.org までお寄せください。）